

2011年

12 / 5

2130号

# 情報産業新聞

INFORMATION INDUSTRIES AND MARKETS NEWS

## 高速屋のDB導入

顧客満足度の向上など

アルペン

スポーツ用品販売最大手のアルペンは、グループの全370店舗からなる大規模基幹系システムに、高速屋の超高速インメモリー型データベース(DB)「高速機関」を導入し、11月より運用を開始した。

導入したのは、各店舗設置のPOS端末、ハンディターミナル端末およびPDAに直結するサーバーで、本社でそれらを統括するサーバーへのインメモリー型DBの導入は国内初となる。アルペンの導入目的

は、各店舗の顧客満足度の向上で、店舗で在庫確認などへの対応の早さがポイントとなる。従来のDBでは、休日の混雑時などに問合せが殺到するシステムからの応答速度が遅くなるという課題を抱えており、その解決策として「高速機関」の導入を決定した。導入で得られた効果は、店舗での問合せ処理の高速化による顧客満足度の向上で、繁忙時であっても顧客を待たせることなく、その場で瞬時に店舗はもとより、近隣店舗の在庫問合せができ、リアルタイムに近い在庫運用が可能になった。さらに、本社での業務集計・分析業務の迅速化と、システムのトータル運用コスト(TCO)の削減も実現している。